

個人投資家向け会社説明会

ダイترون株式会社(7609)

代表取締役社長 土屋 伸介

見通しに関する注意事項

本資料に掲載されている将来の見通しや予測に関する記述等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであり将来の業績を保証するものではありません。種々の要因により影響を受けた場合は、実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があります。
本資料利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。

本資料における留意点

表記しております当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益額となります。

0. はじめに
1. ダイトロンについて
2. 当社の強み
3. 第11次中期経営計画(11M)について
(2024～2026年)
4. 2026/2Q 業績について
5. 通期連結業績予想
6. 株主還元
7. ブランディング強化

Daitron

- ▶ 私たちダイترونは、電子・半導体分野を通じて社会インフラや産業の発展を支える**技術立社**です。
- ▶ **商社機能**だけでなく、自社オリジナル製品を開発・製造する**メーカー機能**を有しており、幅広くモノづくりを支えています。

1. ダイトロンについて

商		号	ダイترون株式会社		
設		立	1952(昭和27)年 6月24日		
本		社	大阪府大阪市淀川区宮原4-6-11		
代	表	者	代表取締役社長 土屋 伸介		
資	本	金	22億70万8,560円		
従	業	員	数	1,117名(2025年12月31日現在)	
売	上	高	1,031億4千2百万円(2025年12月期)		
事	業	内	容	電子機器及び部品、各種製造装置等の製造・販売及び輸出入	
連	結	子	会	社	12社(うち海外11社)
株		式	東証プライム市場 (証券コード：7609)		
認		証	ISO14001・ISO9001		



本社(大阪府大阪市)

創業の精神

きびしい仕事 ゆたかな生活

行動規範

積極開拓 創意工夫 良識遵法
精励勤勉 友愛団結

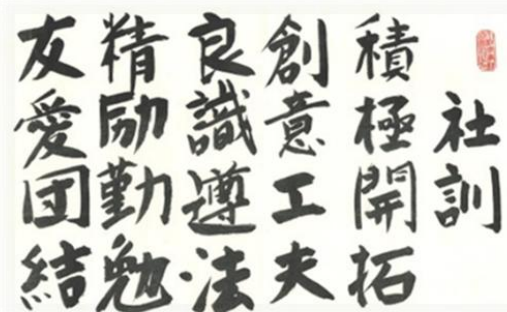
経営理念

我が社は社員の自己実現を尊重し完全燃焼を期するため、
真に働き甲斐のある快適な職場創りを目指します。

我が社は株主・顧客・仕入先に対して満足の提供に努力致します。

我が社は絶えずグローバルな視野に立って、
技術革新と高付加価値の創造に挑戦していきます。

我が社は絶えず感謝の念をもって社会に貢献していきます。





1952

大都商事

高本善四郎氏（京都府出身）が、大阪市北区に資本金30万円にて大都商事(株)を設立。
東京通信工業（現ソニーグループ）の特約店となり、当時珍しかったテープレコーダの販売に注力。

1998

ダイトエレクトロン

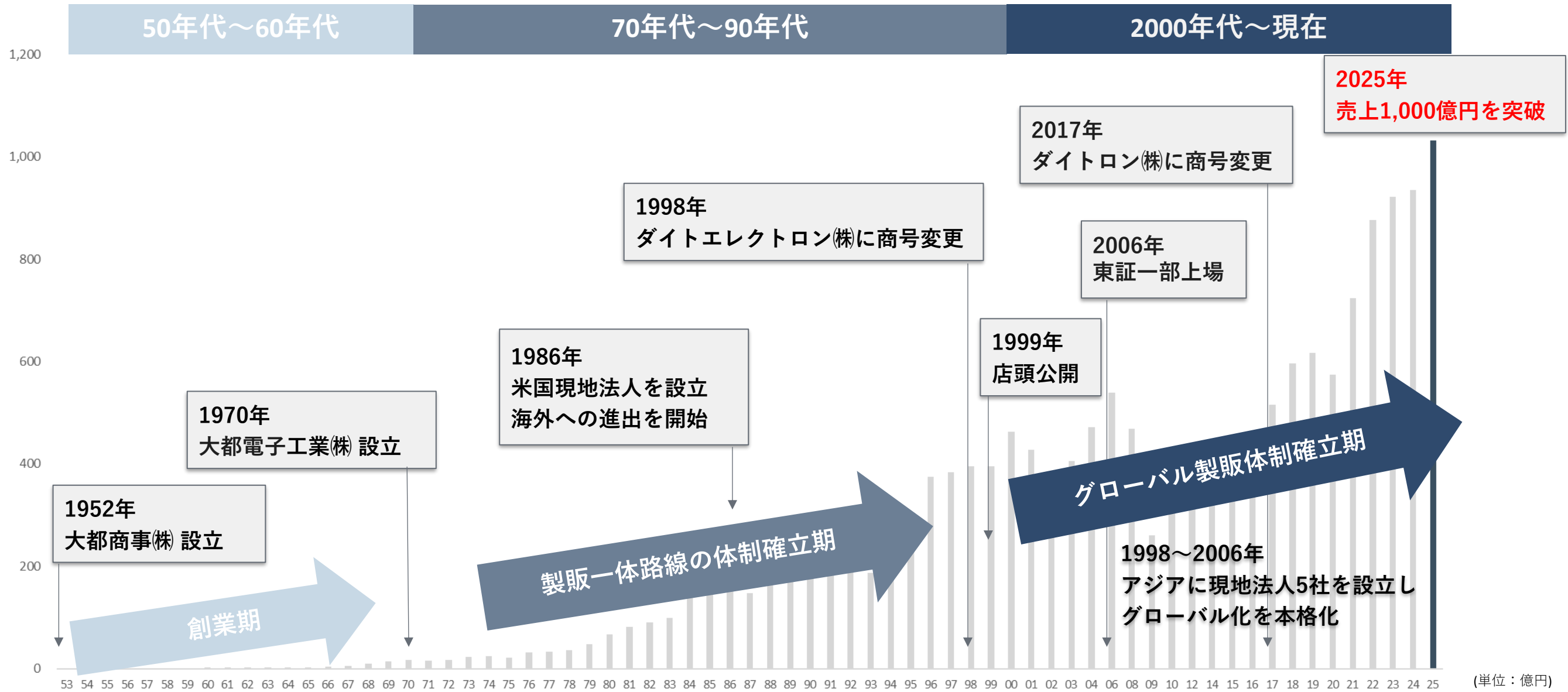
大都商事からダイトエレクトロン(株)に商号を変更

2017

ダイトロン

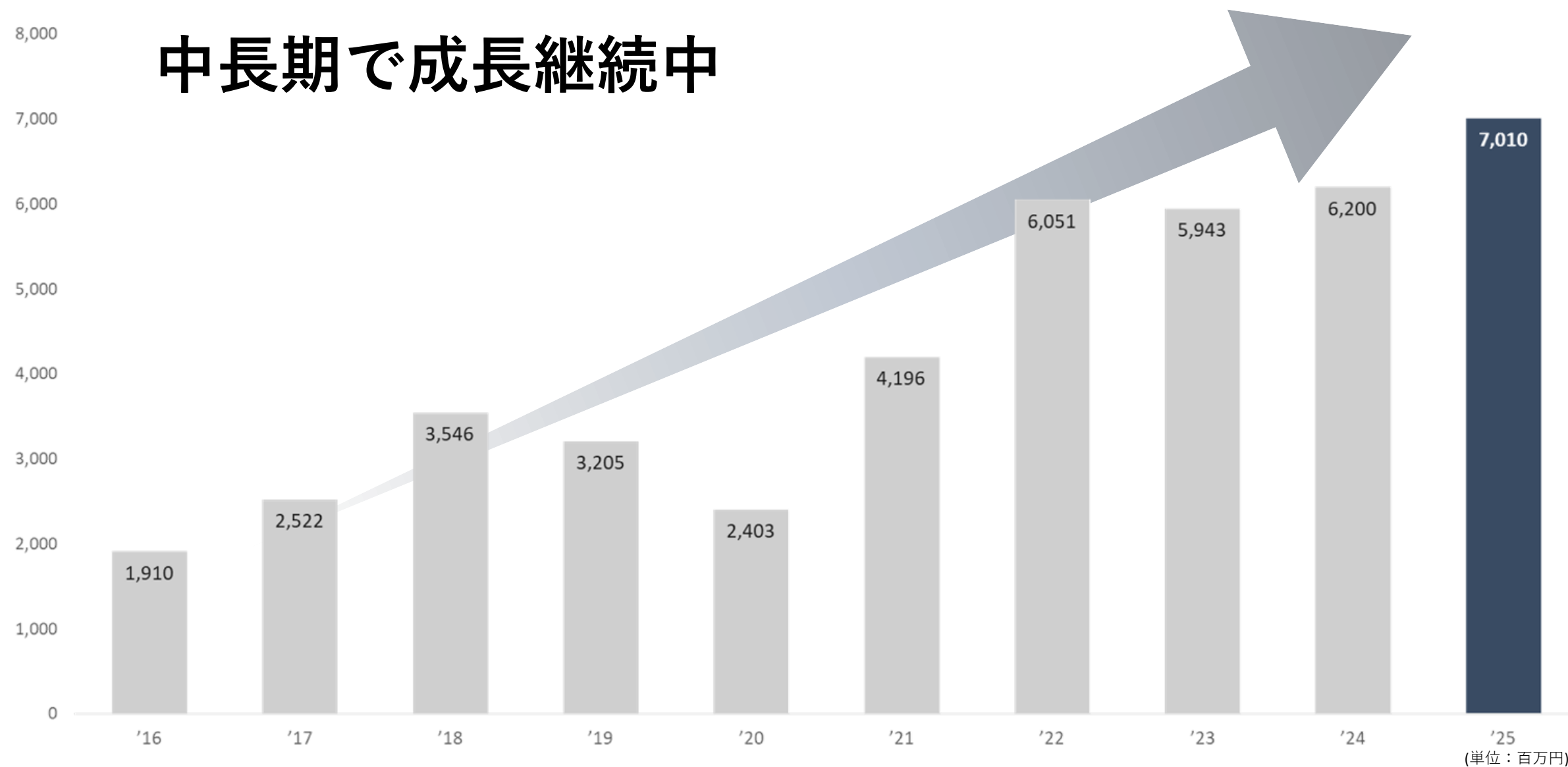
国内子会社のダイトデンソー、ダイトロンテクノロジーと合併し、ダイトロン(株)に商号を変更

創業から現在まで – 売上高実績

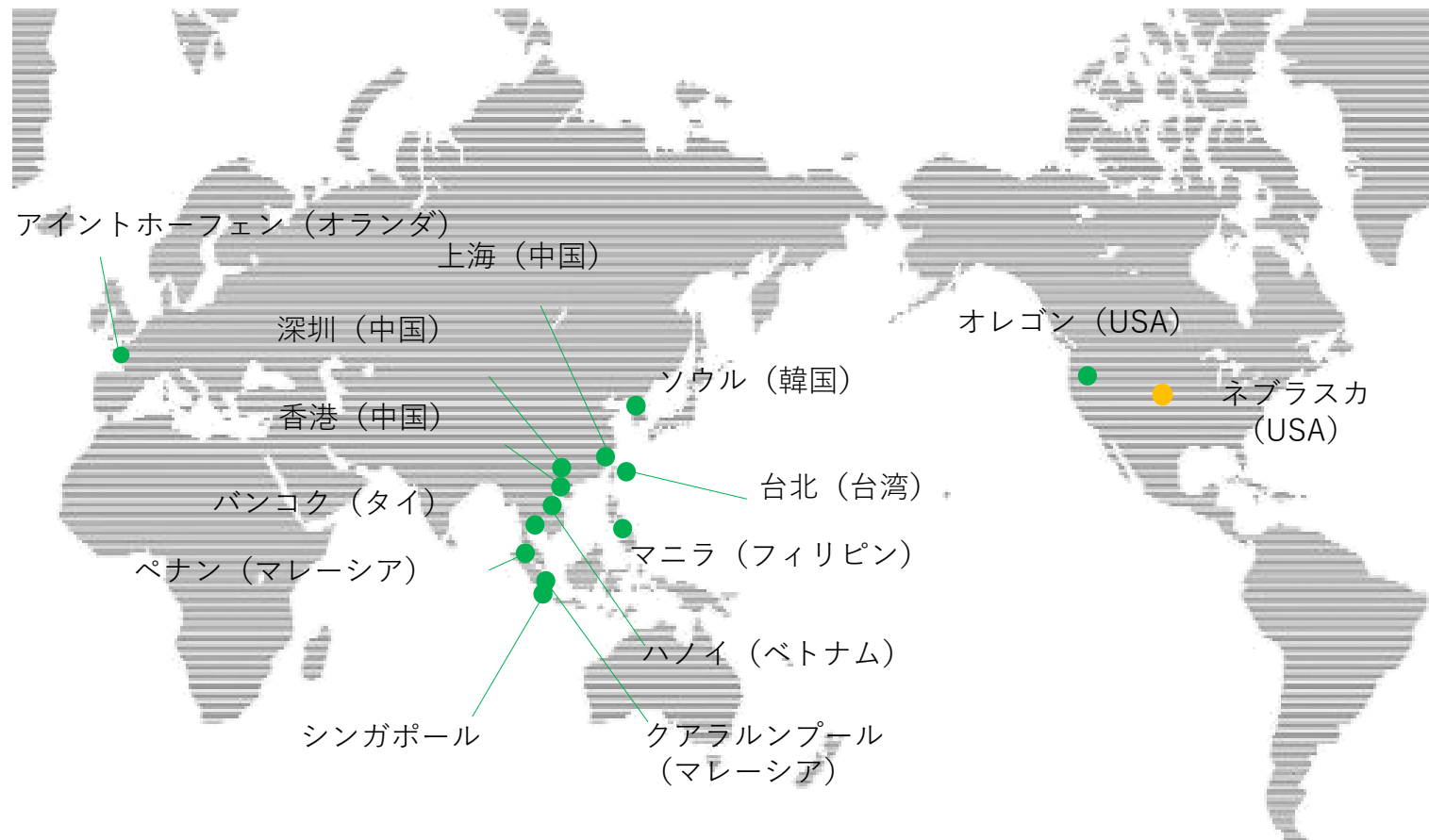


(注記) 1998年より連結決算を開始。グラフの売上高は1998年以降は連結ベース、それ以前は単体ベースで表記しております。

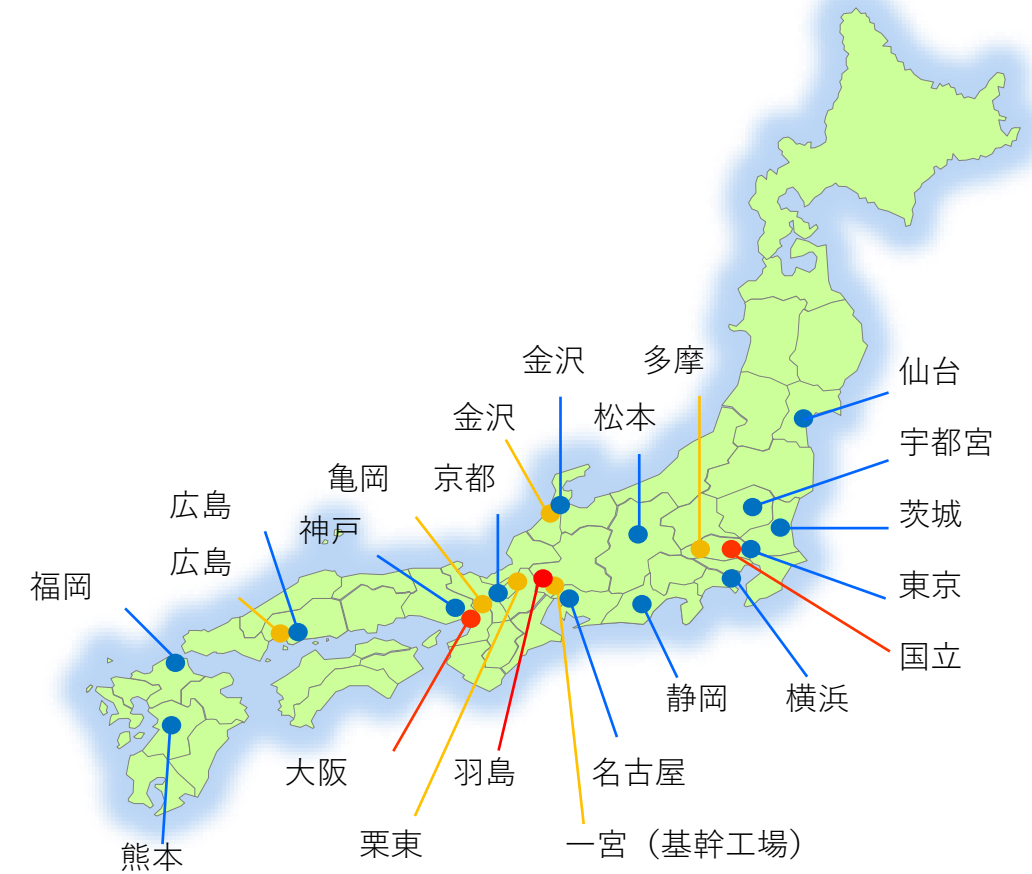
中長期で成長継続中

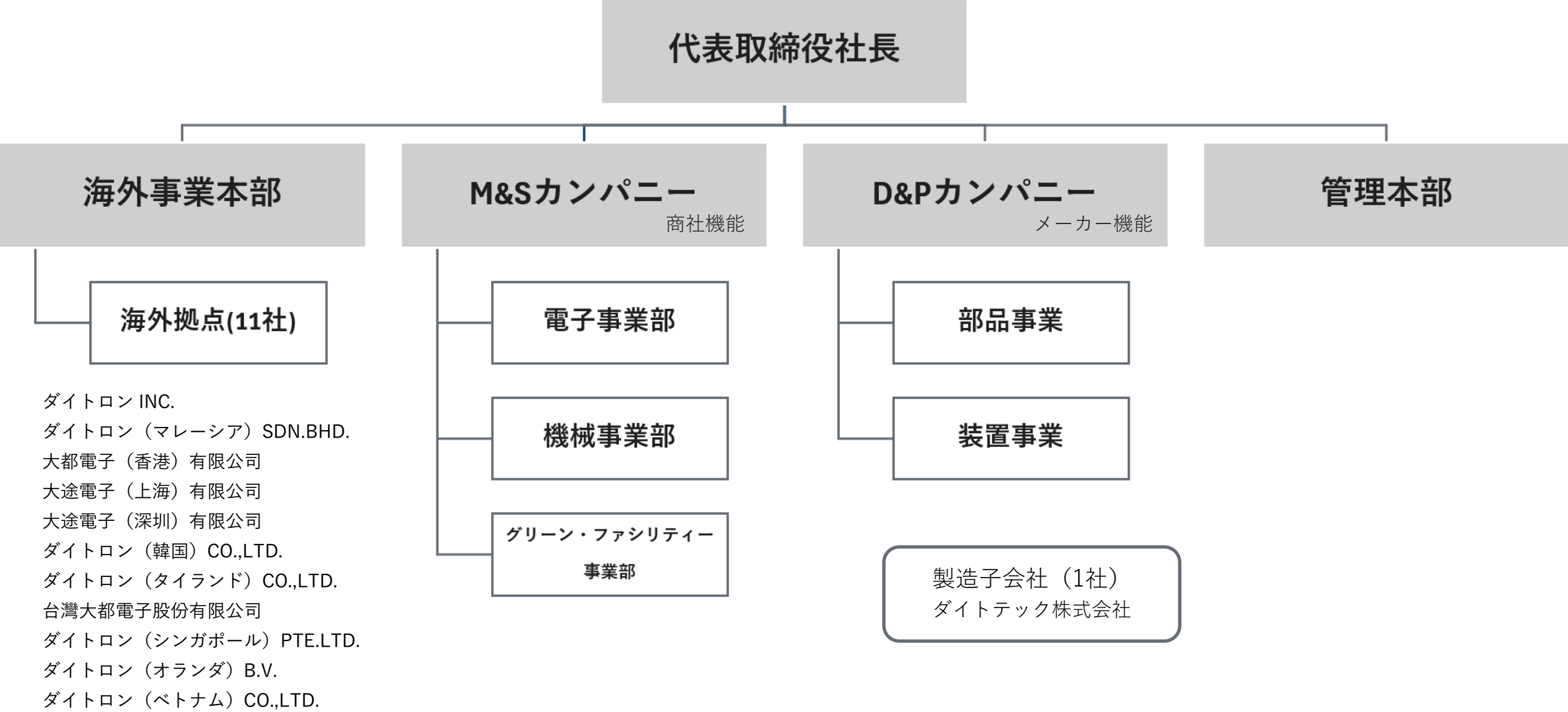


▶ 国内23拠点(うち6工場)・海外14拠点(うち1工場)

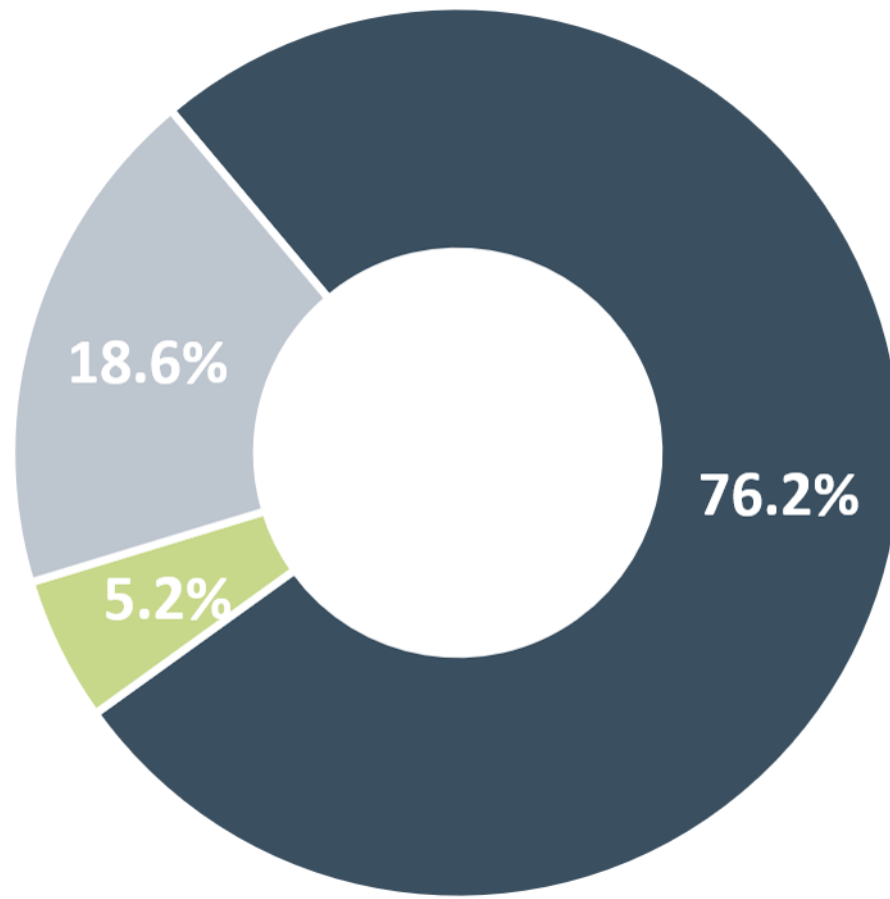


- 営業所、出張所
- 営業所+物流センター
- 海外拠点
- 工場





- ▶ 大きく「電子機器・部品」と「機械・製造装置」「新規事業」に分類しています。
- ▶ 「機械・製造装置」は設備投資の影響を受けるため、「電子機器・部品」が経営の安定に寄与しています。



売上高 **29,363** 百万円 (前年同期比 **+15.2%**)

電子機器・部品	22,372 百万円
機械・製造装置	5,454 百万円
新規事業 (グリーン・ファシリティー)	1,537 百万円

(注記)

グリーン・ファシリティーとはデータセンター向け大型UPSを取り扱う事業部の名称です。

千円単位で計算、四捨五入して百万円単位で表示しているため合計数値にズレが生じています。

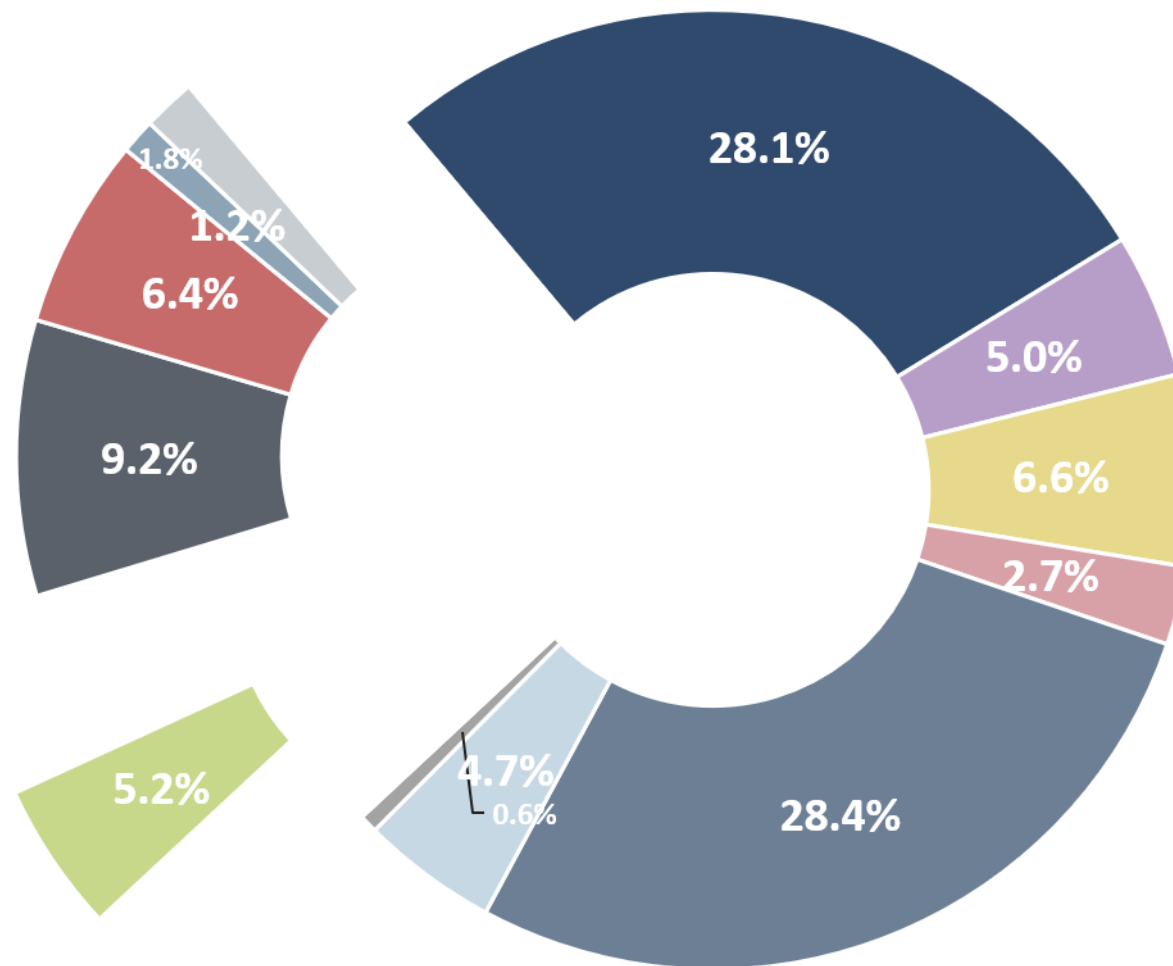
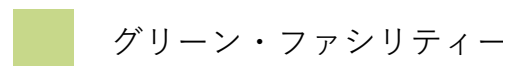
セグメント別売上高構成比（2026/2Q実績）



機械・製造装置



新規事業



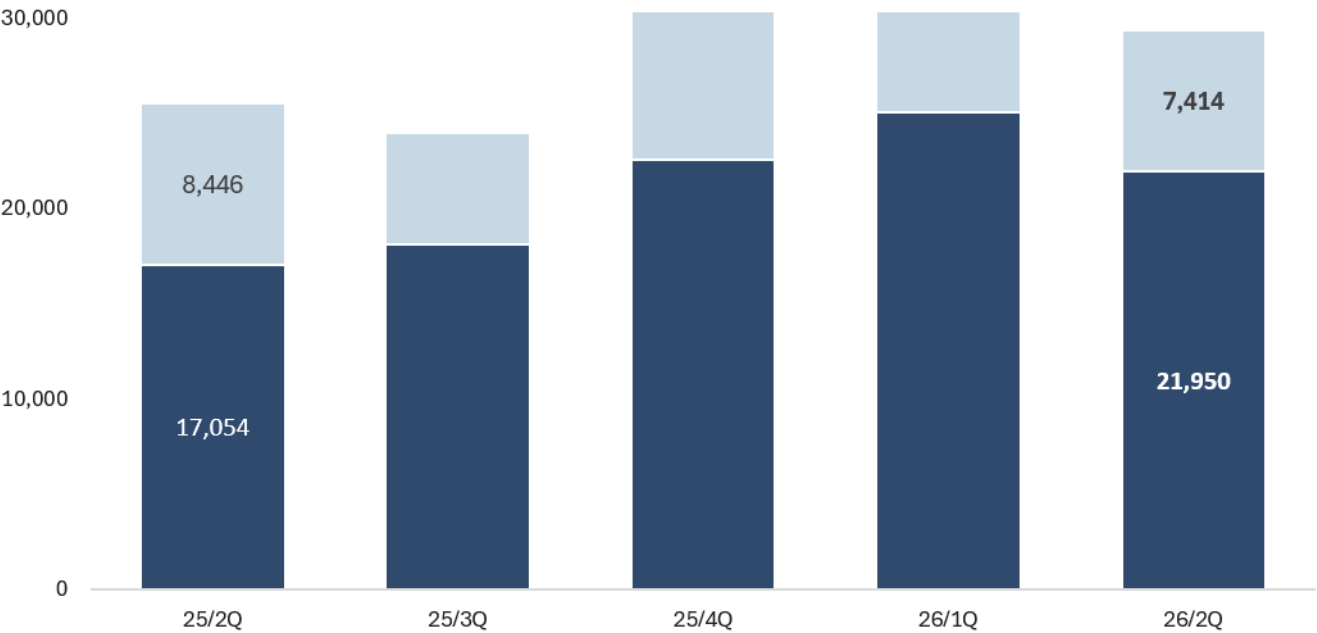
電子機器・部品



(注記)

小数点以下第二位で四捨五入して表示しています。

オリジナル製品を含んだ商品セグメントです。



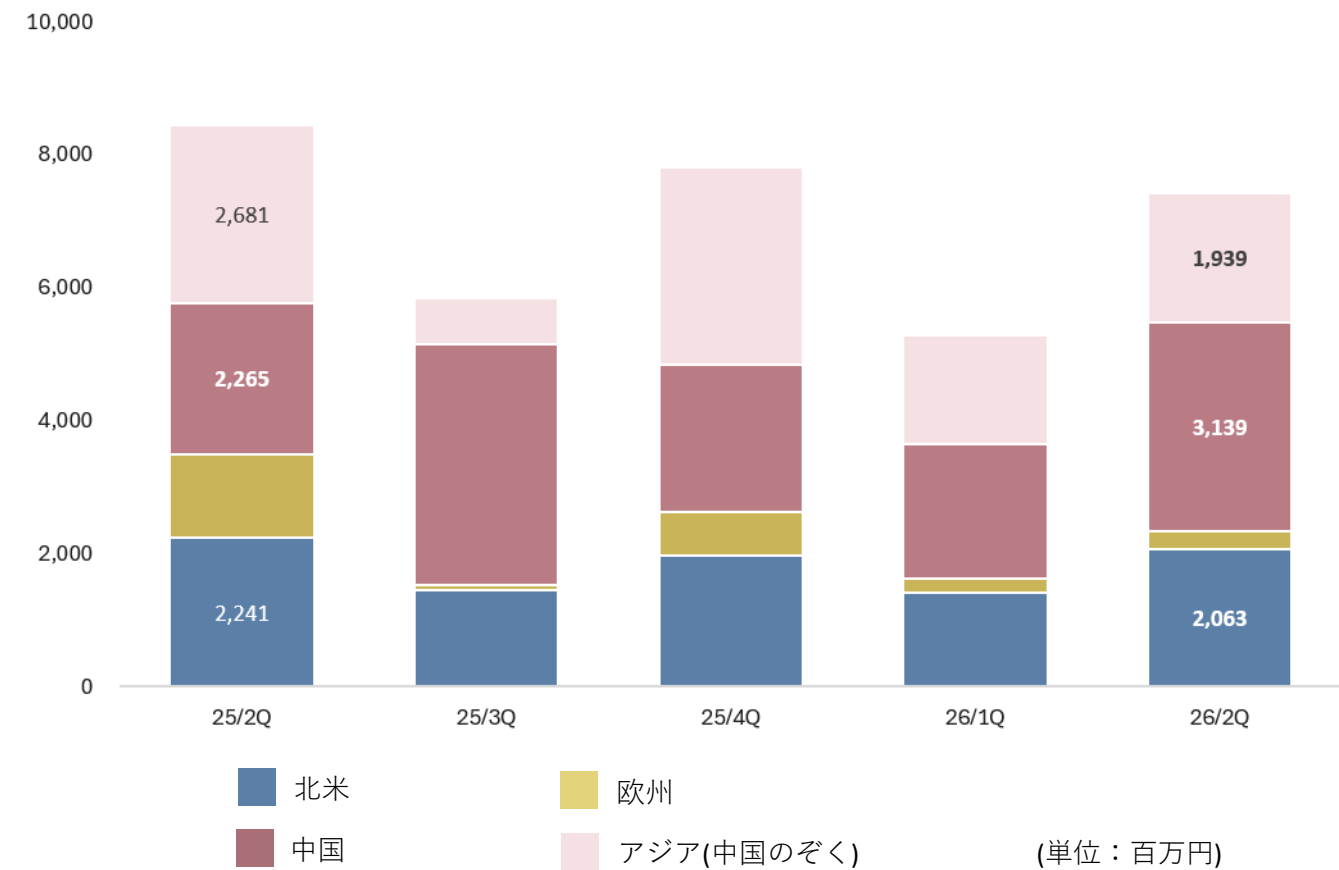
■ 国内売上高 ■ 海外売上高 （単位：百万円）

	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	'25累計	25/2Q累計	26/2Q累計
国内	17,054	18,104	22,541	25,046	21,950	76,111	35,466	46,996
海外	8,446	5,845	7,800	5,292	7,414	27,031	13,387	12,706
合計	25,500	23,949	30,340	30,338	29,363	103,142	48,852	59,702

トピックス

- ▶ 基盤となる国内販売が順調に推移。
（国内：74.8%、海外：25.2%）
- ▶ 生成AI・半導体設備投資は海外においても好調。
- ▶ 海外販売では、装置案件の検収が順調に進む。

（注記）
千円単位で計算、四捨五入して百万円単位で表示しているため合計数値にズレが生じています。



	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	'25累計	25/2Q累計	26/2Q累計
北米	2,241	1,461	1,966	1,411	2,063	7,054	3,628	3,474
欧州	1,259	73	661	219	273	2,045	1,311	492
中国	2,265	3,612	2,223	2,026	3,139	10,048	4,214	5,165
アジア (中国のぞく)	2,681	700	2,950	1,636	1,939	7,883	4,234	3,575
海外合計	8,446	5,845	7,800	5,292	7,414	27,031	13,387	12,706

トピックス

- ▶ 北米では、車両ハーネスのプロジェクトにより堅調に推移。
- ▶ アジアでは、製造装置向け部品の販売が好調。
- ▶ 特に中国では、データセンターに関連する設備投資が活発。
- ▶ 中東情勢の悪化による原油価格高騰により、コストの上昇が懸念される。
- ▶ 北米の関税問題に関する直接的な影響はないが、為替動向も含め引き続き注視。

(注記)
千円単位で計算、四捨五入して百万円単位で表示しているため合計数値にズレが生じています。

- ▶ 半導体やカメラなどを取り扱っています。
- ▶ また、ハーネスやコネクタを自社で製造・販売しています。

部品 & ASSY



各種コネクタ・
ハーネス



ハーメチックコネクタ

オリジナル製品

半導体



LED・光学素子



アナログ・高周波IC

エンベデッド システム



産業用
カスタムPC



産業装置用
組込PC

グリーン・ ファシリティ



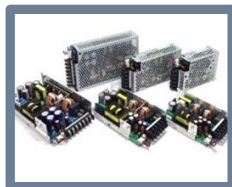
無停電電源装置
(大型UPS)

データセンター向け

電源機器



無停電電源装置
(小型UPS)



超低ノイズ
スイッチング電源

オリジナル製品

画像機器



照明



カメラ

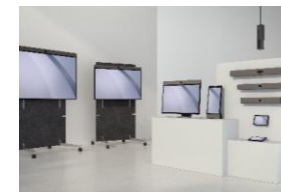


レンズ

情報システム



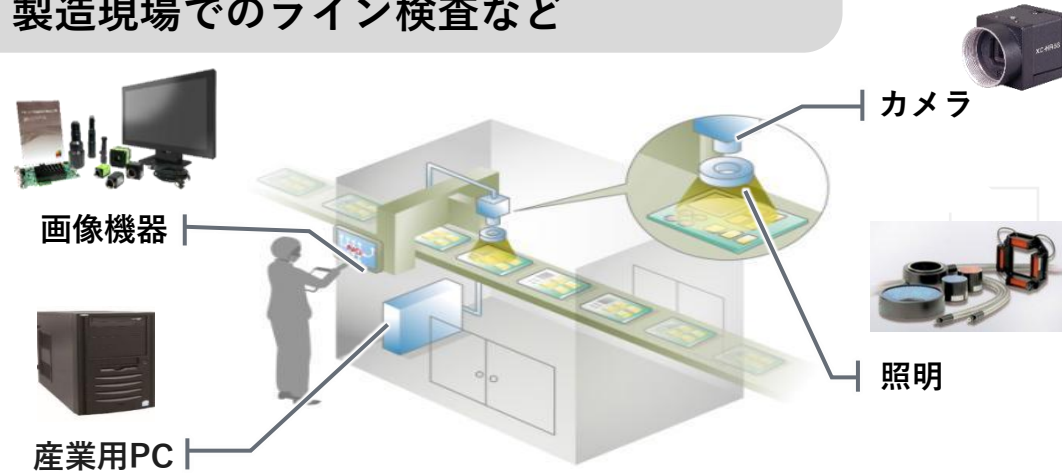
非接触ICカード
システム



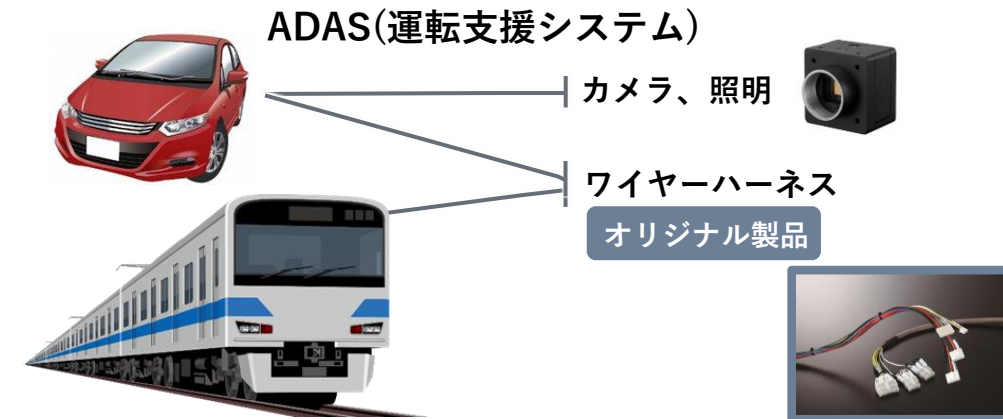
Web会議
システム

- ▶ 身近に感じていただける場面での商品用途例をご紹介します。

製造現場でのライン検査など



輸送用機器



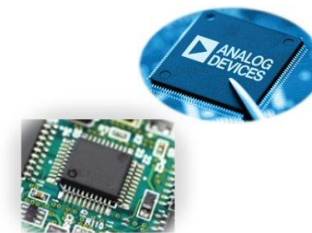
医療用機器 検査機器・診断機器など



無人レジなどの自動化支援



- ▶ “半導体”はスマートフォンや自動車、家電などさまざまな電子製品に用いられています。
- ▶ “半導体”は、材料からチップ状の製品になるまでに多くの工程があります。
- ▶ 当社は、その工程で使用する製造装置を製造・販売しています。
- ▶ 機械・製造装置のセグメントを4つに分類しています。



電子部品・半導体



ウェーハ面取機

オリジナル製品



チップソーター

オリジナル製品

オプトデバイス



スクライブ・ブレイク装置

オリジナル製品



外観検査装置

オリジナル製品

パワーデバイス



ウェーハ面取機

オリジナル製品



ウェーハ
片面研磨機

注力事業設備



電極シート検査装置



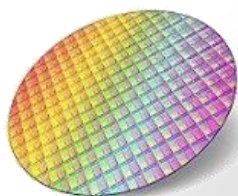
バッテリー用
ワイヤーボンダー

材料・素材

- ・シリコン
- ・SiC など

前工程

ウェーハ上に
電子回路を形成



後工程

形成した回路をチップ化
ウェーハの切出しと組立

用途例



半導体製品

IT製品



ADAS
運転支援システム



EV

産業機器



データセンター



5G & 6G
AI・IoT

無停電電源装置
(大型UPS)

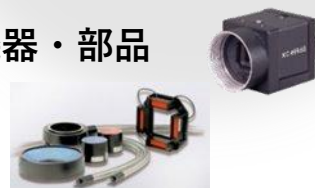
半導体製造装置向け部品

ウェーハ面取機
盤のエッジを削る



オリジナル製品

画像関連機器・部品



部品 & ASSY



スクライブ・
ブレイク装置
チップの加工



オリジナル製品

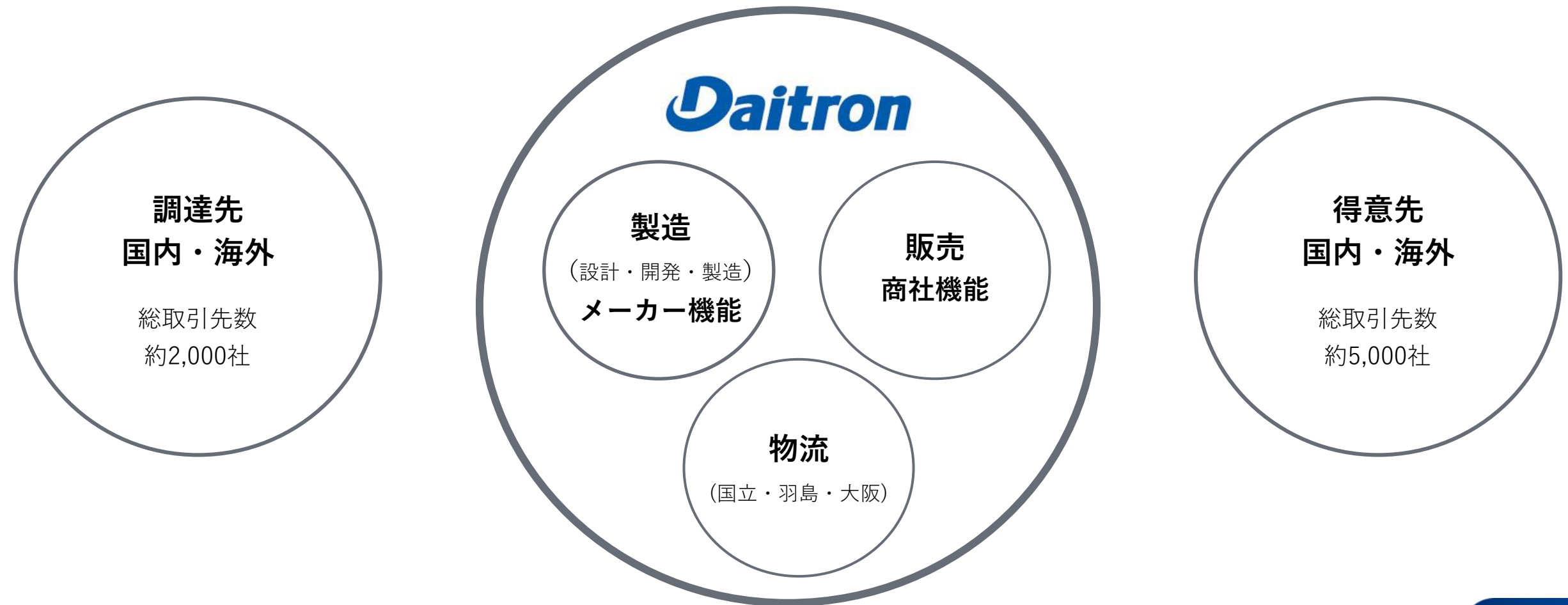
外観検査装置
チップの検査



オリジナル製品

2. 当社の強み

- ▶ **商社×メーカー機能**により高収益を維持しています。
- ▶ 付加価値の高い技術力と、市場を発掘するマーケティング力をあわせもつため、**製販融合**の強みを活かして、お客様の幅広いニーズに対応することが可能です。



- ## 外部環境

-
- 主な注力領域・市場
- AI
 - 5G & 6G
 - メディカル
 - エネルギー (電池市場)
 - 航空
 - 海洋
 - 鉄道車両
 - データセンター
 - コンピューティング関連
 - 半導体
 - オートモーティブ
 - 産業機器 (ロボット・自動化機器)
 - 通信
 - IoT

製販融合

グローバル展開

強固なパートナー基盤

ビジネス構成

安定した収益基盤

売上高は堅調に推移

高収益

売上総利益率 21.7% (26/2Q)

営業利益率 8.8% (26/2Q)

3. 第11次中期経営計画(11M)について (2024～2026年)

中長期スローガン

“技術立社”として、グローバル市場で躍進する！

長期ビジョンと連動した 11M 大方針

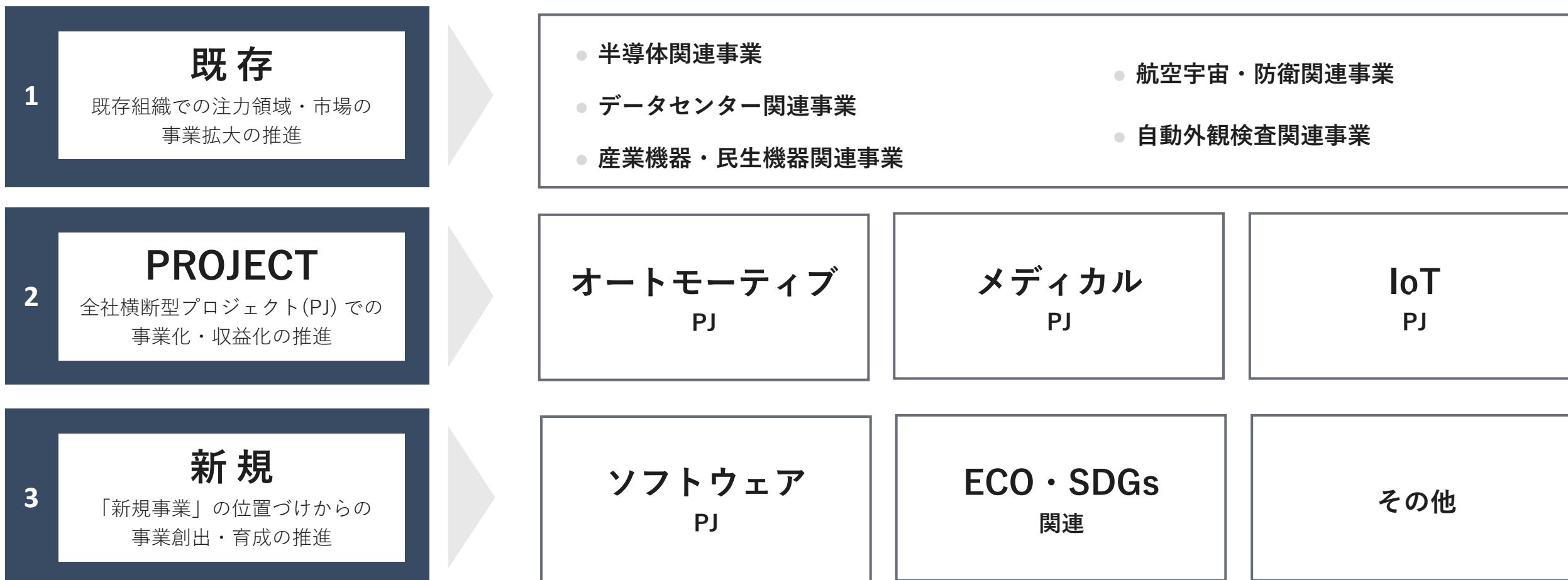
- 技術立社として、グローバル市場で成長し、売上高1,000億円を超える企業
- 電機・電子を通じて広く社会へ豊かな暮らしを提供する企業
- 社員にとって、働き甲斐があり、誇りに思える企業
- 一致団結の強さと同時に、自律能動的に動く組織文化を持つ企業

主な 強化ポイント (重点課題)

- 安定成長の基礎となる「国内ビジネス」の補強継続
- 中長期的な成長戦略の核となる「海外ビジネス」のさらなる強化
(特に、海外市場における電子機器・部品ビジネスの強化)
- 利益体質の源泉となる「オリジナル製品」の開発・コスト低減・販売強化
- 新たな収益の柱育成に向けた「新規事業」の創出・育成強化

- ▶ 国内外の市場動向や当社グループにとっての事業機会を分析し、
「注力領域・市場」に対して、積極的な攻めの姿勢で開拓・拡大を推進

3つの施策とその注力領域・市場



1 安定成長の基礎となる 国内ビジネスの補強

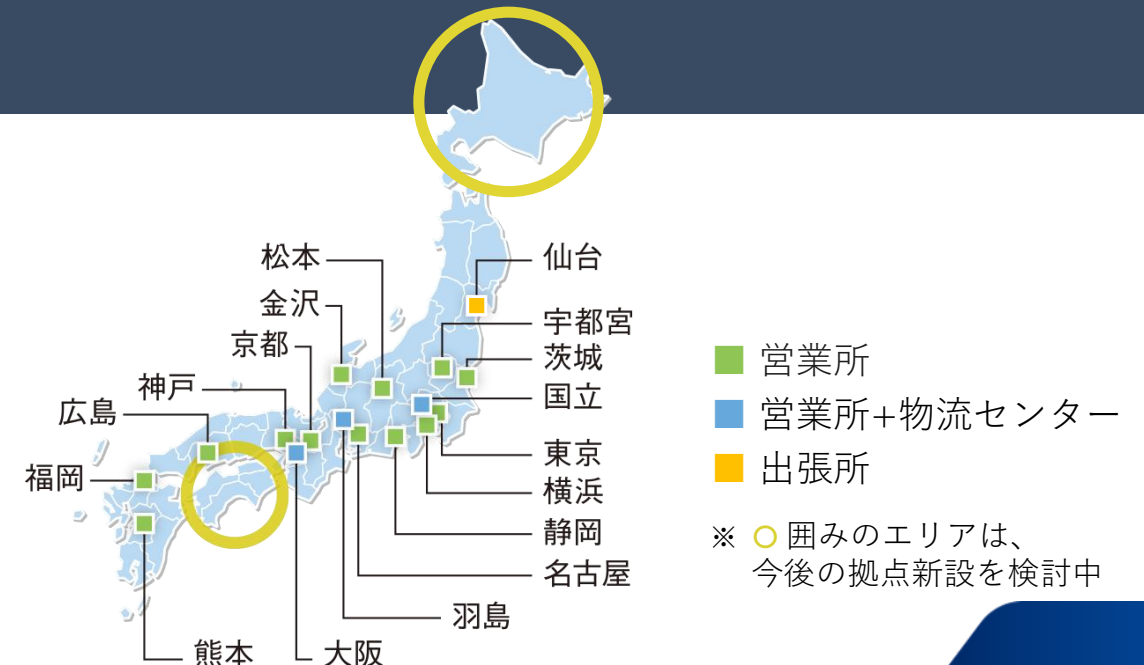
マーケティングのチカラを高める！

● 重点得意先へのさらなる深耕

- “All Daitron” の製品展開の継続
(D&Pカンパニー・M&Sカンパニー・海外グループ 三位一体の連携を推進)
- 地元密着(エリア営業) 強化による、地場優良企業との取引拡大

● 有望地域への新規展開の積極化

- 有望地域への拠点新設(出張所含む)を検討
《候補地》 北海道・四国地域・三重など
- 営業所への昇格：仙台



2 成長戦略の核となる 海外ビジネスの強化

マーケティングのチカラを高める！

● 引き続き、電子機器・部品事業に軸足を置いた拡大を推進

- 需要変動の大きい製造装置事業は、安定的な事業拡大をコントロール（受注案件の計画的な立上げ・検収、顧客の選択と集中、リスクヘッジ）

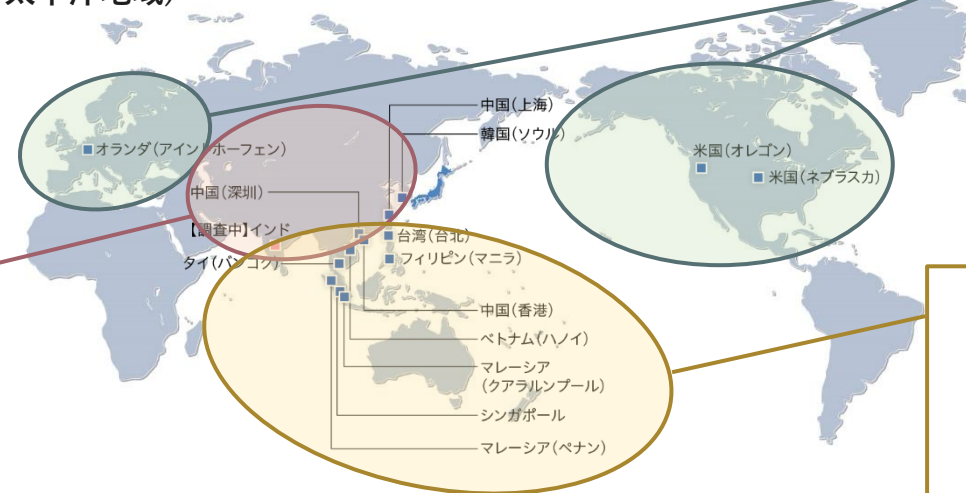
● 海外営業拠点の拡充

- 地域統括会社の設立（中華圏、インド太平洋地域）
- 地域別の営業拠点拡大

【中華圏】

- サテライトオフィスの設置・拡充
（中国内陸部）

- 海外拠点（子会社含む）
- 調査中の拠点



【北米・欧州地域】

- サテライトオフィス設置または販売代理店契約
（各3地域以上）
- メンテナンス事務所開設
（北米：2地域、欧州：オランダ以外に3地域以上）

【インド太平洋地域】

- インド駐在員事務所の設置
（2つの候補地について検討中）
- 製造拠点(ハーネス、電源、外注の内製化)の設立検討
（候補：ベトナム）

3 グローバル生産体制の強化

モノづくりのチカラを高める！

● 国内外における生産能力の強化

- グローバル生産体制のマザー工場である「中部工場」を核に、国内外の生産体制強化を継続推進。

国内

- 新規協力企業開拓
(ハーネス・組配・基板・板金・塗装・ソフト設計・メカ設計)
- ソフトウェア会社とのアライアンス、M&Aの推進
→ 人材確保、技術力補強

海外

- リンカーン工場の人員補強
- リンカーン工場の協力企業開拓 (メキシコ・米国・日本)



中部工場



リンカーン工場

● 生産コスト低減施策の継続推進

- リンカーン工場の恒久的工数低減計画の立案・実行
- アジア圏に新たな生産拠点を設立 (候補地：ベトナム)



4 製品の高付加価値化に向け 技術・製品開発と知財戦略の強化

モノづくりのチカラを高める！

- 引き続き、中部工場の技術部門を中核とした体制強化

- 技術・製品開発の積極化

- 量産製品の高付加価値化を推進(性能向上、機能追加など)
- 今後の技術・製品の高付加価値化に必要不可欠な「ソフトウェア」関連技術の強化
 - ソフトウェア関連技術者の採用強化、ソフトウェア会社とのアライアンス検討など
- 国内外における顧客情報収集を強化し、オリジナル製品開発を継続的に追求

- 知財戦略の強化

- コア技術の明確化と当社グループが保有する技術の棚卸による知財管理の基盤整備
- 中長期的な知財戦略に基づく新たな資格取得制度の確立
 - 評価制度とリンクした総合的な制度構築により、社員のモチベーション向上へ
- 特許出願・保有件数の中長期的な拡大

5 事業サポート機能の強化

コーポレート部門のチカラを高める！

● DX（デジタルトランスフォーメーション）

DX推進による生産性と業務品質の向上

- ① 業務プロセス・業務システムの変革
 - ・ 見積、販売・購買、生産管理、会計、経営管理等のシステムのバージョンアップやリプレイスに着手
 - ・ 情報セキュリティの強化
- ② DX推進基盤の整備
 - ・ DX推進指標による課題抽出と対策
→ DX認定の取得へ

● グローバル人材

グローバル人材の育成と国内外人材交流

- ・ 海外拠点インターンシップ勤務制度の導入、制度化
- ・ D&Pベトナム人技能実習生の継続採用、他工場への展開化

● 人的資源経営

人的資本経営による人財価値の向上

- ① 研修・教育投資による労働生産性の向上
 - ・ 個人スキル向上のための研修・教育制度の整備と投資
 - ・ 専門人材のキャリア採用
- ② ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進
 - ・ 女性活躍（総合職比率、管理職比率の向上）
 - ・ シニア活躍（満足度の向上）
 - ・ 障がい者雇用（法定雇用率順守）
 - ・ 人事制度の見直し（エキスパート・シニア・各種手当など、制度の整備）
 - ・ 健康経営優良法人の認定取得

● 広報・IR

- ① 広報・IR専門部署の設置
- ② Daitronブランドの認知度向上

6 ESG経営の推進（サステナビリティへの取組み）

コーポレート部門のチカラを高める！

● ESG経営の推進による持続可能な社会実現への貢献

1. サステナビリティ委員会の活動推進

- マテリアリティに関するKPI設定と、具体的なアクション
(サステナビリティ委員会分科会活動の推進)
- 統合報告書でのKPIの進捗開示

2. コーポレートガバナンス・コードへの対応

- エクスプレインコードの対策検討

3. コーポレート・ガバナンス強化

① 委員会活動の強化

コンプライアンス委員会	企業内不祥事の未然・拡大の防止
リスク管理委員会	経営資源保全のための経営リスクの未然防止
内部統制委員会	財務報告に関する内部統制の有効性の確保

② 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行：

取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を
取締役会の構成員とすることにより、
取締役会の監督機能を強化し、
より一層のコーポレート・ガバナンスの充実を図る。

キャッシュアロケーションの方針(2025年～2026年)



- ▶ 財務基盤の健全性を確保することを前提に、成長投資と安定した株主還元を両立させることを基本方針として、事業の持続的な成長による企業価値の向上を目指す。

キャッシュイン

自己資本・資金調達
(有利子負債活用も検討)

営業CF
約90億円

キャッシュアウト

成長・合理化投資

- ▶ 研究開発投資：約 10 億円
オリジナル製品強化による収益性向上
- ▶ DX推進投資：約 15 億円
生産性、効率性の向上
- ▶ 新規事業及び生産能力強化：約 35億円
 - ・ グリーン・ファシリティー事業の効率性向上、対応力強化のための投資
 - ・ オリジナル製品の生産能力強化のための投資
- ▶ M&A投資
シナジー重視で検討

株主還元

- ▶ 配当方針の変更(2024年12月期)
配当性向の目安を30%から40%に変更
- ▶ 自己株式の取得
機動的に判断、実施

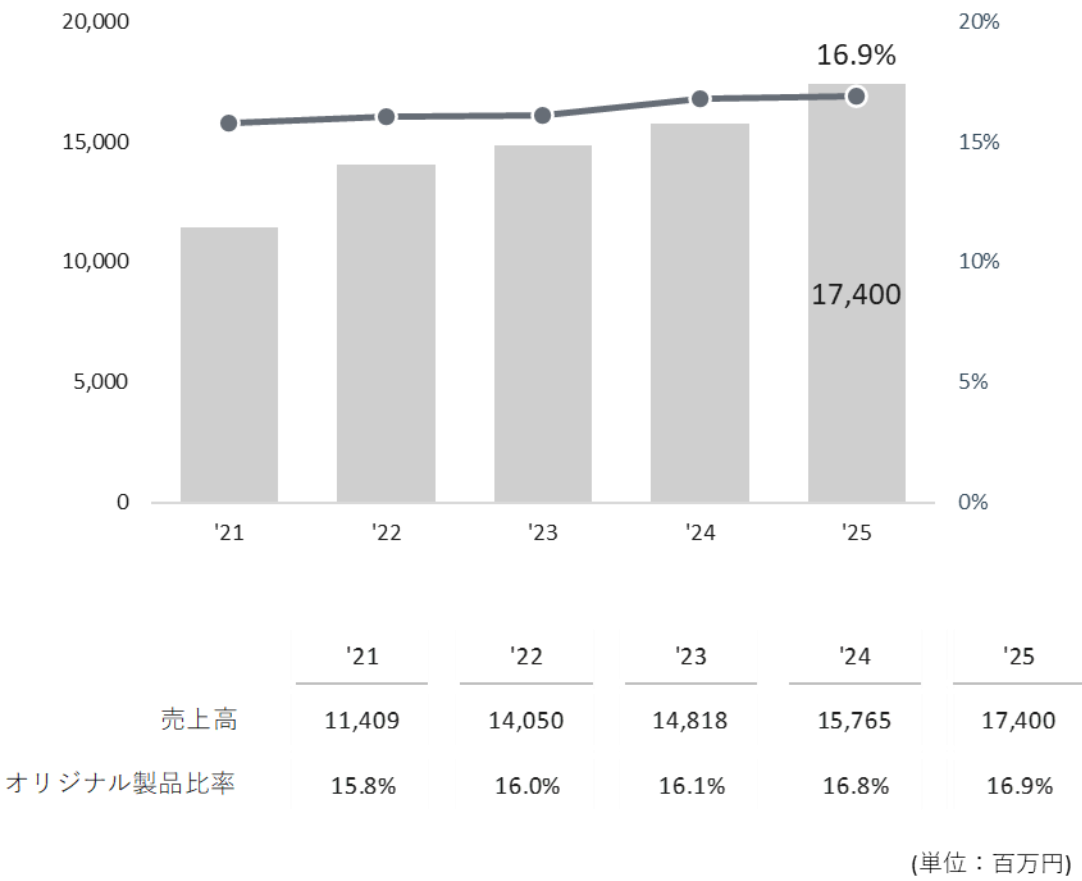
第11次中期経営計画のKPI進捗状況



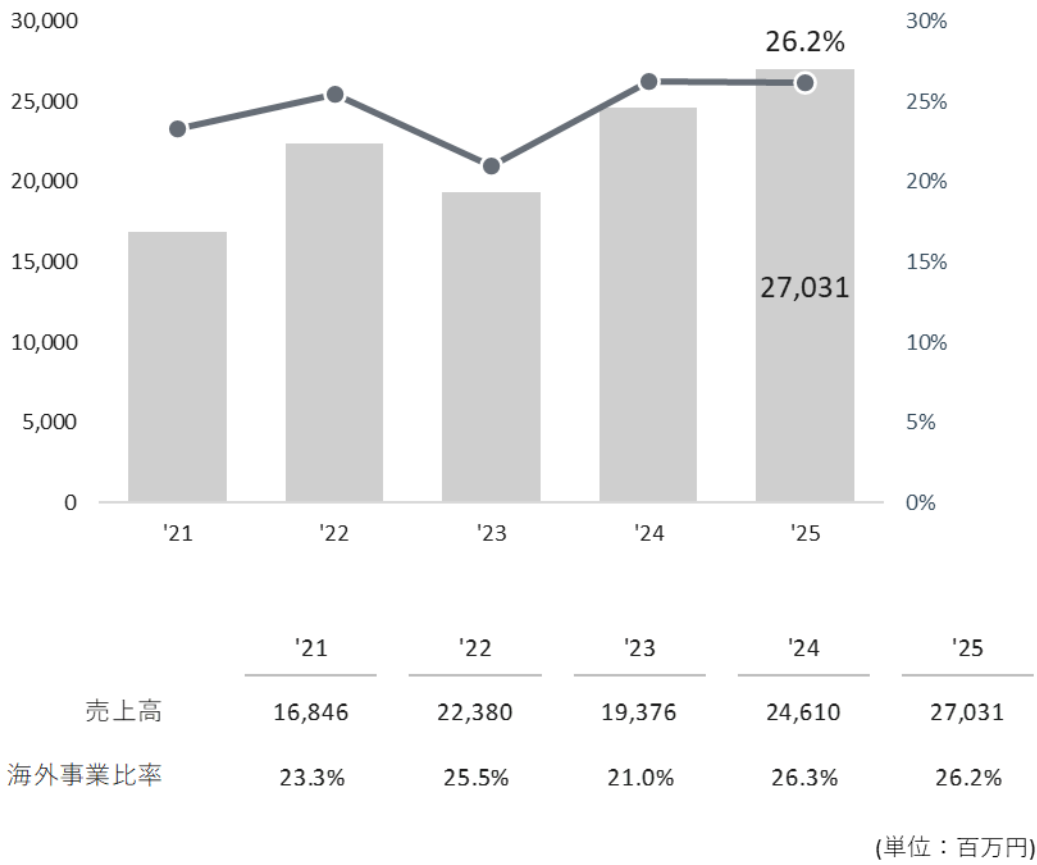
経営指標	11M 目標値	'24	'25	進捗状況
売上高	1,000 億円超	935 億円	1,031 億円	2025年度に達成
売上総利益率	20 %以上	20.2 %	20.3 %	順調に推移
ROE	12 %以上	14.0 %	14.4 %	順調に推移
ROA	6 %以上	6.2 %	6.5 %	順調に推移
自己資本比率	50 %	45.1 %	44.8 %	更なる総資産の圧縮が必要
事業別構成比率	電子機器・部品	60 %	66.1 %	データセンタービジネスが順調に推移し新規事業が伸長
	製造・検査装置	30 %	26.8 %	
	新規事業	10 %	7.1 %	
オリジナル製品比率	25 %	16.8 %	16.9 %	商社販売が同様に成長しており比率は伸び悩む
海外事業比率	30 %	26.3 %	26.2 %	国内事業が同様に成長しており比率は伸び悩む
配当性向	40 %目安	39.3 %	40.9 %	順調に推移
PER	—	6.96 倍	10.45 倍	
PBR	—	0.92 倍	1.44 倍	



オリジナル製品売上高推移



海外事業売上高推移



4. 26/2Q 業績について

2026年2Q 業績概要



- ▶ 生成AI・半導体製造設備投資の好調を背景に、業績は堅調に推移。おもに製造設備向けの部品販売が引き続き好調。
- ▶ 26/2Q : 売上高 **29,363** 百万円、売上総利益 **6,368** 百万円、営業利益 **2,580** 百万円を確保。
- ▶ 26/2Q累計 : 売上高 **59,702** 百万円、売上総利益 **12,548** 百万円、営業利益 **5,045** 百万円を確保。

	25/2Q	25/3Q	25/4Q	26/1Q	26/2Q	前年同期比	26/2Q 累計実績	前年同期 累計増減率	'26 公表予想	進捗率
売上高	25,500	23,949	30,340	30,338	29,363	+15.2%	59,702	+22.2%	118,000	50.6%
売上総利益	5,465	4,774	6,080	6,180	6,368	+16.5%	12,548	+24.0%	-	-
営業利益	2,153	1,327	1,960	2,465	2,580	+19.8%	5,045	+35.5%	9,000	56.1%
経常利益	2,147	1,412	2,092	2,531	2,667	+24.2%	5,198	+42.3%	9,150	56.8%
当期純利益	1,513	929	1,439	1,740	1,815	+20.0%	3,556	+39.2%	6,300	56.4%

(単位：百万円)

5. 通期連結業績予想

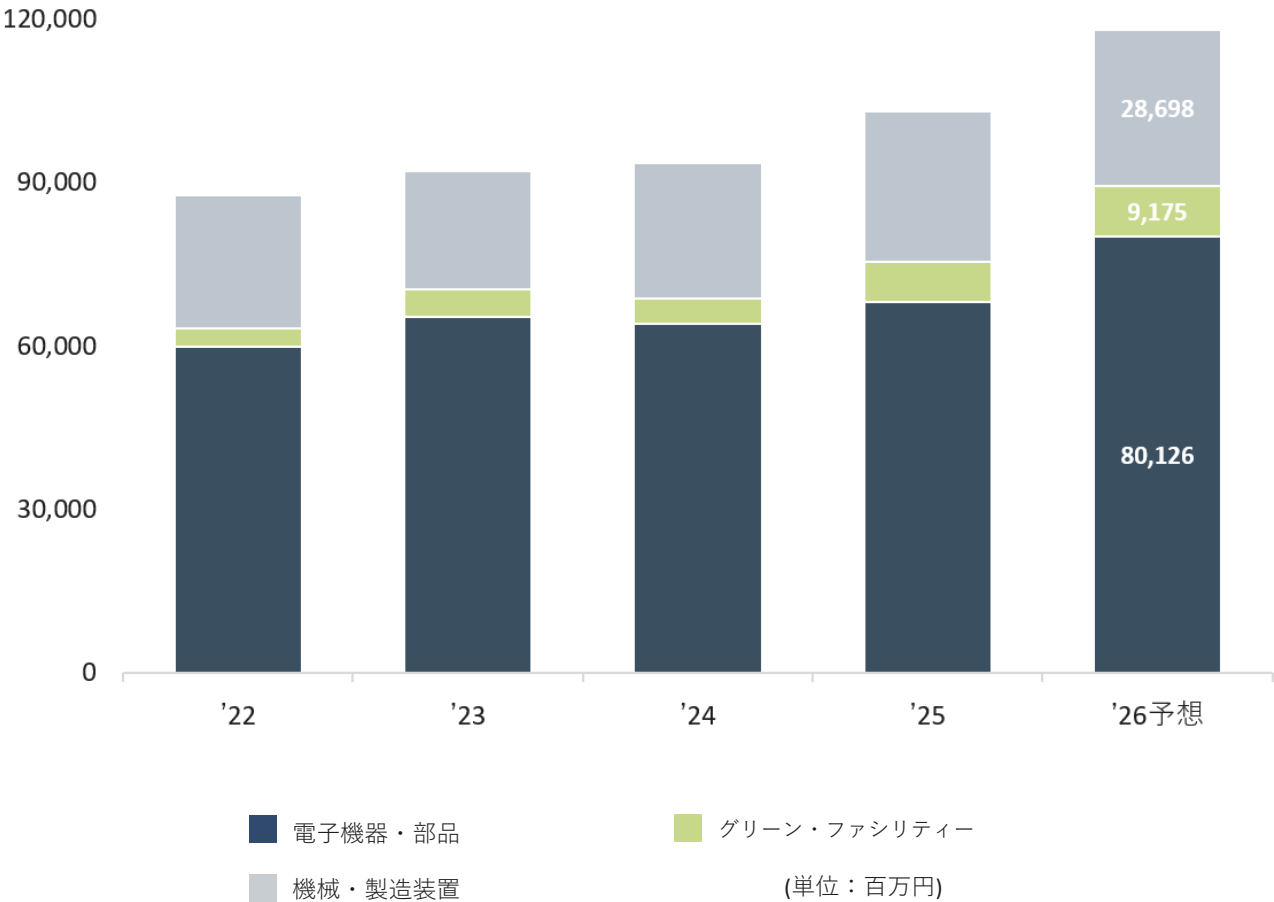
通期連結業績予想



	'22	'23	'24	'25	26/2Q累計実績	'26 通期予想	前年比(予想)
売上高	87,639	92,156	93,542	103,142	59,702	118,000	+14.4%
売上総利益	17,587	18,151	18,868	20,978	12,548	-	-
営業利益	6,051	5,943	6,200	7,010	5,045	9,000	+28.4%
経常利益	6,210	6,015	6,335	7,156	5,198	9,150	+27.8%
当期純利益	4,237	4,014	4,382	4,923	3,556	6,300	+28.0%

(単位：百万円)

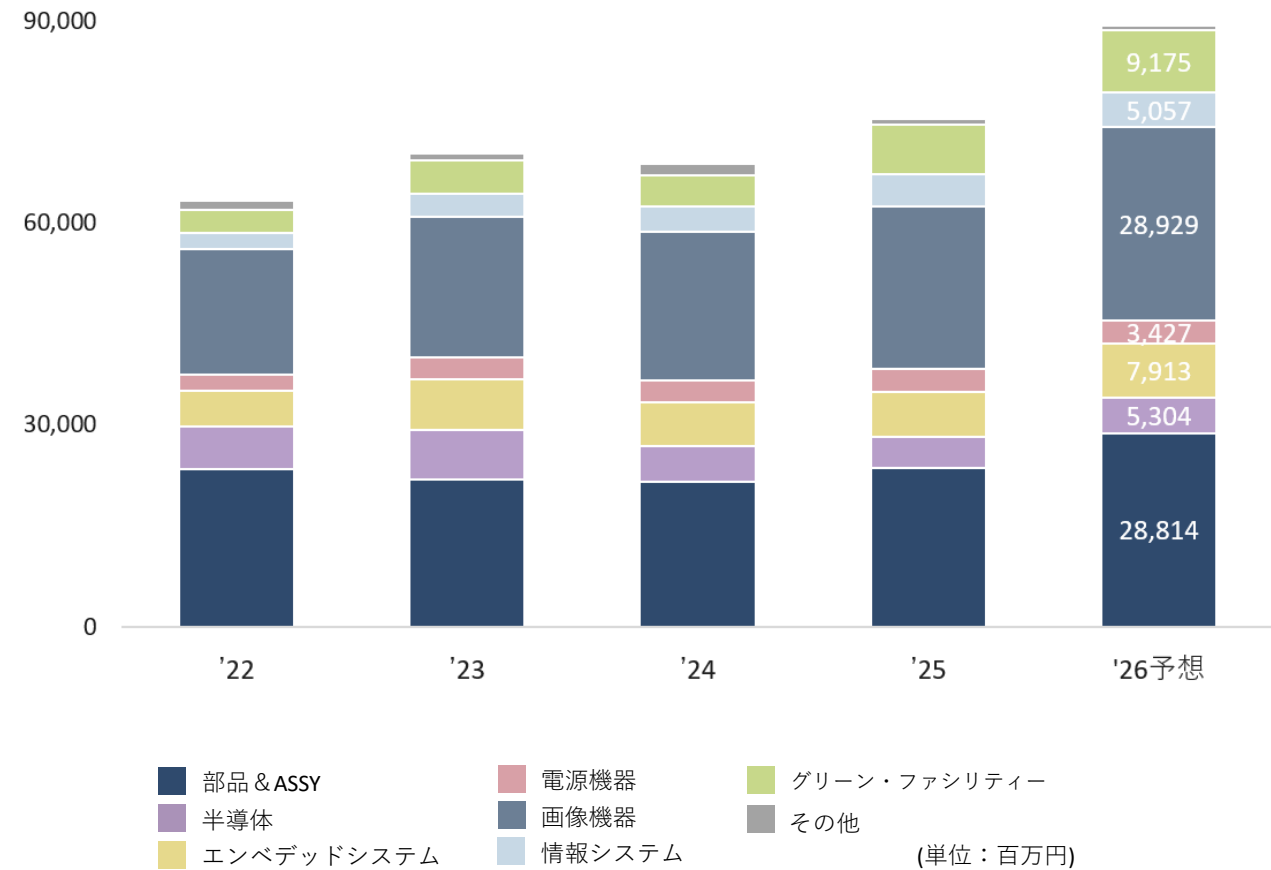
事業別売上高推移予想



	'22	'23	'24	'25	'26予想
電子機器・部品	59,960	65,314	64,100	68,171	80,126
新規事業 (グリーン・ファシリティー)	3,312	5,052	4,678	7,300	9,175
機械・製造装置	24,367	21,789	24,764	27,671	28,698
合計	87,639	92,156	93,542	103,142	118,000

(注記)
千円単位で計算、百万円未満を切り捨てて表示しているため合計数値にズレが生じています。
グリーン・ファシリティーは電子機器・部品セグメントと区分して記載しています。

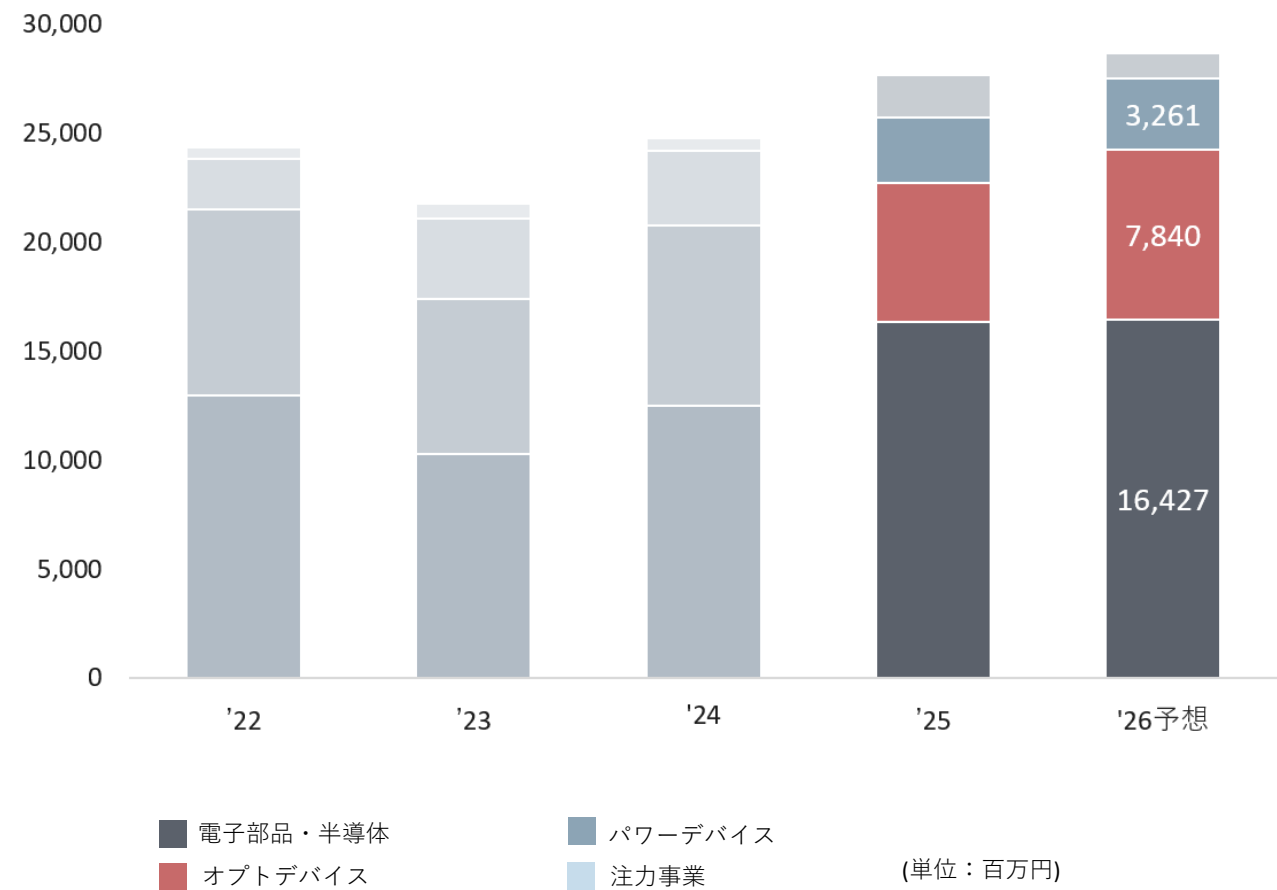
商品セグメント別 売上高推移予想 (電子機器・部品)



	'22	'23	'24	'25	'26予想
部品 & ASSY	23,434	21,954	21,485	23,579	28,814
半導体	6,269	7,387	5,405	4,593	5,304
エンベデッドシステム	5,442	7,507	6,452	6,742	7,913
電源機器	2,297	3,221	3,247	3,431	3,427
画像機器	18,761	20,846	22,198	24,212	28,929
情報システム	2,421	3,418	3,669	4,748	5,057
グリーン・ファシリティ	3,312	5,052	4,678	7,300	9,175
その他	1,332	978	1,639	862	678
合計	63,272	70,366	68,778	75,471	89,301

(注記)
千円単位で計算、百万円未満を切り捨てて表示しているため合計数値にズレが生じています。

商品セグメント別 売上高推移予想 (機械・製造装置)



	'22	'23	'24	'25	'26予想
電子部品・半導体	12,971	10,298	12,505	16,320	16,427
オプトデバイス	8,553	7,094	8,249	6,415	7,840
パワーデバイス	2,313	3,677	3,423	3,008	3,261
注力事業	529	719	586	1,928	1,168
合計	24,367	21,789	24,764	27,671	28,698

(注記)
千円単位で計算、百万円未満を切り捨てて表示しているため合計数値にズレが生じています。
2026年より、セグメントの表記・区分変更をおこなっております。(2024年までの数値は旧商品セグメント)

6. 株主還元

投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、株式の流動性向上を図る

株式分割の実施

分割比率
1 対 2

基準日：2025年12月31日

効力日：2026年 1月1日

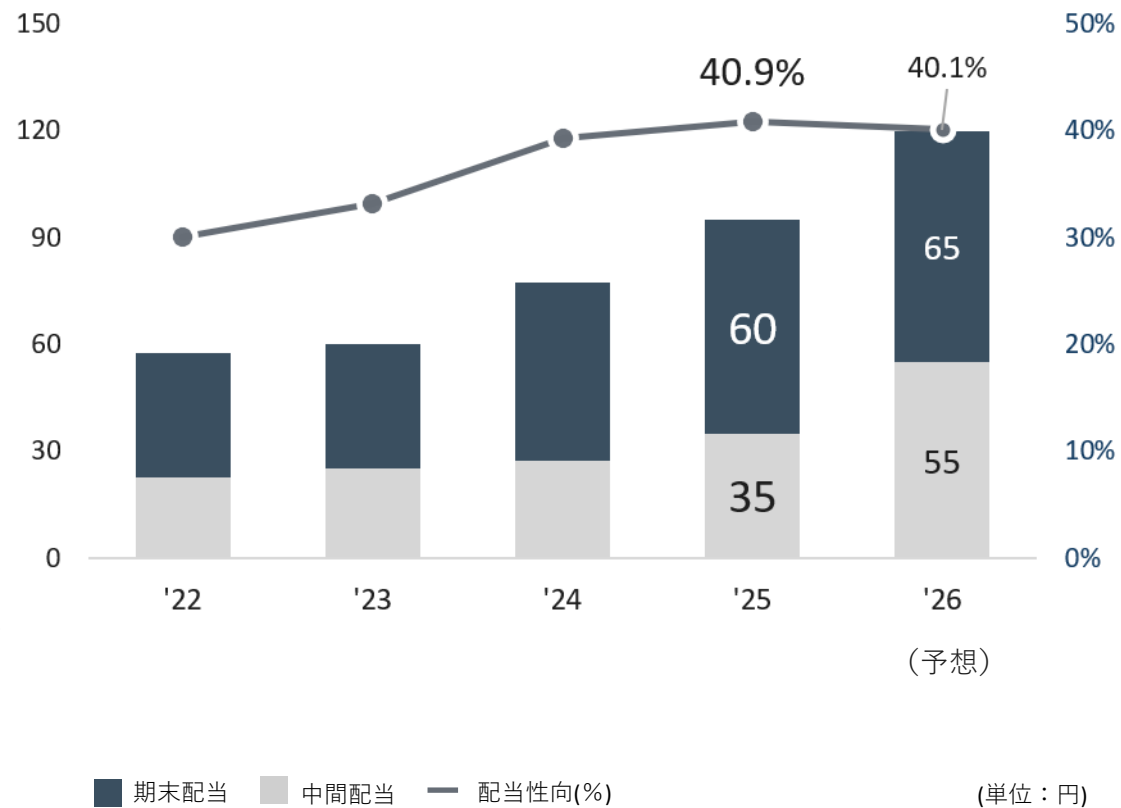
自社株買い実施(2025年度)

取得した株式の総数： **580,700** 株

自社株買い実施(2026年度)

取得した株式の総数： **571,000** 株

1株あたりの配当額・配当性向



2025年12月期まで5年連続の増配中

<基本方針>

株主の皆様への利益還元を最も重要な経営課題として位置づけ、財務体質の強化と内部留保に配慮しつつ、業績を加味して利益配分を実施する。

- ▶ 2024年12月期より配当性向の目安を30%から40%に変更。
- ▶ 2025年12月期は1株あたり配当額95円(中間配当35円)。
- ▶ 2026年12月期は1株あたり配当額120円(中間配当55円)を予想。
- ▶ 5年連続増配。

(注記)

2026年の年間配当額・配当性向は予想です。

2026年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

なお、2025年12月期以前の株価は株式分割を考慮した場合の配当額・配当性向となります。

7. ブランディング強化



DAIBO(ダイボ)

<プロフィール>

社 歴：2021年デビュー
2025年入社

身 長：62.1cm

体 重：195.2kg

得 意：未来をちょこっと変えること

好 物：大福

▶ コーポレートサイトを全面刷新



URL : <https://www.daitron.co.jp/>

- デザイン刷新
- 情報導線改善
- スマホ対応強化



新大阪駅構内

- スターバックス前
- グランドキオスク前



京セラドーム大阪

- 3塁側 5階観客席

その他のIR情報も是非ご覧ください。

統合報告書



シェアードリサーチ



本資料ならびにIR情報に関するお問い合わせ先

ダイترون株式会社

経営管理部 広報・IR課

T E L : 06-6399-5952

F A X : 06-6399-5864

E-mail : info.ir@daitron.co.jp